



立教中高同窓会

会報 No.19
2025年5月発行



撮影者：立教池袋高等学校 写真部部长 中山 敬太（高校2年生）

立教の祈りと感謝の絆

立教池袋中学校・高等学校長 吉野 光



立教池袋中学校・高等学校長の吉野と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

4月より本校のみならず立教大学の行事、試合、芸術の発表会等、皆さんの後輩となる若者の活躍を応援してまいりました。

特に創立150周年式典や、お招き頂いた大会場で多くの同窓生の方々にお会いし、ご挨拶させていただきました。

「私は、池袋中学校〇〇期です」「息子が池袋生です」「うちは3代続いて立教です」「娘は香蘭女学校に通っています」など、多くの皆様からご挨拶をいただき、立教学院の長く深い歴史をあらためて感じております。

その中でひとつ紹介させていただくと、11月にオール立教スイミングフェスティバルにお招き頂きました。ここでは、立教小学校、立教女学院小中高、新座中高、池袋中高、立教大学の一貫連携校、系属校の水泳部のある学校の若者たちが、新座キャンパスのプールで元気に泳ぐ姿を見せてくれました。学校の枠を超えて集い、真剣勝負をしながらも和気藹々と、お姉さんお兄さんが弟妹たちに、自分が授けられたように励まし応援している姿を見て、これこそ主イエス・キリストと共に生きる「立教」の良さであり、各学校が子どもたちと祈りを共に捧げながらひとつにつながる一貫連携教育であると感じます。

皆様が、このつながりを継続されてきたご苦労は、並大抵のことではなかったのではと推察いたします。皆様が後輩を励まし、希望を与えてくださっていることに、若者をお預かりする校長として心より感謝申し上げます。

あらためて今後ともよろしくお願い申し上げます。

卒業生も驚愕！ 国立競技場での体育祭、その舞台裏を実行委員に直撃

令和 6 年度 立教池袋中学・高等学校の体育祭「^{むらさきさい}紫咲祭」が初めて国立競技場で開催された。その舞台裏について、実行委員会の皆さんと顧問の田部先生にお話を伺ってきました。

インタビュー参加者
田部 達弥先生（保健体育科・顧問） 永田 希（実行委員長）
奥田 煌人（副実行委員長） 中村 大凱（会計）
金子 史恩（書記） 久保 壮太郎（総務）

体育祭実行委員になったきっかけ

澤田：まずは体育祭実行委員になったきっかけを教えてください。
久保：実行委員長の永田以外の4名は同じ数理研究部に所属しています。「国立競技場で体育祭を開催できたら面白い」という話が数理研究部の中で盛り上がり、そこから興味を持ちました。
中村：そうそう。その話を実現するには多くの人の協力が必要だになってことで少しでも力になればと思い私も加わりました。
奥田：学内の体育祭は保護者も呼べず盛り上がりには欠けると感じていて、新しい取り組みをしたかったんです。
永田：私は中学時代から実行委員をやっていて、「学外で開催したい」と思っていました。奥田君と「国立競技場でやりたいね」と話したのがきっかけです。

金子：私はほかの数理研メンバーが挑戦してみるということだったので、そのメンバー内で従来とは違った視点でものを考えたいと思い参加しました。
田部先生：私が顧問になった頃から学外開催の声はありました。コロナ禍で体育祭の規模が縮小され、中学・高校別々の開催で保護者も観覧できないという制約が多かったため、生徒たちの「もっと大きな場でやりたい」という気持ちが強くなったんだと思います。私は陸上を専攻していたので、国立競技場が民間にも貸し出されていることは認知していました。ちょうど他校でも実績があるということだったのでその情報参考にしながら、利用に向けて競技場側と交渉を進めました。

国立競技場を借りる費用

澤田：費用はどう工面しましたか？



▲ 左から田部先生、中村さん、奥田さん、永田さん、金子さん、久保さん

田部先生：国立競技場を平日の日中に借りるにあたり、基本料金が 100 万円、付帯設備を含めて約 130 万円かかります。前年からおおよその費用を把握し、他校の事例を示しながら学内の先生方にもご納得いただき学校の下承を得ました。
生徒：開催が難しいかもしれないといわれていた時期もありましたよね？
田部先生：ありました。ただ、日程を押さえていたのは良かった。体育祭を中止にはしたくなかったし、他の会場は予約が難しい。国立競技場なら観客席に屋根があるため、雨天でも決行できるという点も決め手でした。
澤田：決め手は「国立」というキーワードが皆さんの中であって、それを実現するためにはどうすればいいかということで力を合わせて行っただけですね。

体育祭の開催形式

永田：生徒約 900 人、保護者約 2000 人、計 3000 人が参加しました。芝生エリアは使えないルールだったのでトラック部分を競技に使用し、競技に参加していない時間帯は保護者と一緒に観覧席から応援を行いました。

当日のタイムスケジュール	
7:00	実行委員現地入り
8:30	生徒集合
8:50	開会式
↓	
16:00	全種目終了
17:00	完全撤収

澤田：当日は大型ディスプレイが活躍したそうですね？
永田：はい。専用のカメラマンを雇うと費用がかかるので、10 人の生徒がスマホで Zoom を使って映像を配信し、ホスト役の生徒がメインの映像を切り替える方式を取りました。
澤田：スマホと Zoom で LIVE 中継ですか、私には思いつかないアイデアです。まさに数理研究部での経験が活かした発想ですね。
田部先生：そう、大人には思いつかない生徒たちのアイデアは素晴らしかったです。
来年以降の開催について
澤田：来年も国立競技場？
田部先生：来年は国立競技場で世界陸上の開

催がきまっています。残念ながら一般貸出できる時期が限られているため当校は利用できません。しかしながら体育祭の学外開催は続けたいので、味の素スタジアム、屋内のアリーナなどのスポーツ施設での開催を目指して準備をしていきたいと思っています。

国立競技場で開催してよかった点

澤田：国立競技場で開催してよかったと思う点があれば教えてください。
永田：やはりあの大きな会場で体育祭を実施するという経験は貴重でした。当初は「遠い」という意見もありましたが、当日はみんな楽しそうで、本当に開催してよかったと感じました。

澤田：準備も大変だったのでは？
永田：はい。巣鴨学園さんが我々の本番 1 ヶ月前に同じ場所で開催するというのを聞いていたので、実行委員メンバーは公欠扱いで保護者席から見学をさせてもらいました。事前に巣鴨学園の生徒会と情報交換もでき、非常に参考になりました。

体育祭で得た達成感と自己成長

澤田：1 番当日の印象に残っている場面はなんですか？
永田：前日とかもすごい遅くまで準備をしていました。当日になるまでずっと不安な気持ちで、うまくいくのかなんてずっと心配して、実際始まった後もずっと不安な気持ちがあったんですけど。途中から全体的に、なんとなくうまく全体が回っている感じがしてきました。そして、参加する生徒の笑顔が見えていくにつれ、ちよとずつ安心感もでてきて。最終的に全てのプログラム終わった時には、本当に達成感をすごく感じて、はい。その瞬間が 1 番印象に残っています。

澤田：自分たちが中心となって企画したからこそ変えられたと思うことはありますか？
久保：今回、国立競技場で開催というのはもちろんですが実はそれだけではなく、たくさん色んな企画と一緒に進めていました。例えば、今までなかったんですけど、応援団を結成したり、クラスごとに応援旗を作ってもらったりしました。4 クラス×中学 + 高校の6学年分 24 クラス種類です。いろいろな企画を広げれば広げるほど僕たちが管理というか、見渡さなければならぬことが増えるということもあり、実現したかったけれどもキャパシティの問題でできなかった企画とかもいくつかあったりするので、やっぱりどこまでができるのかを考えながらやる必要があるとだなという点は感じました。

中村：そうですね。いろいろなことが多すぎるんですけど、ピックアップすると、やっぱり当日にむけてずっと長い間皆と一緒に作ってきたプロジェクトなので、その当日、もう本当何が何でも成功させてやろうっていうつもりでがんばってきました。それでもその準備だとか当日の、当日の想定とかすごい、もう大変で、ま、ちょっとトラブルがあったこともあったんですけど、大きなイベントになると、見渡さないといけない能力が必要だというのを感じました。
永田：私は、実行委員長という立場で当日だけでなく、生徒総会や朝礼でも話す機会が何回もありました。これまで僕はそういった経験がなく、生徒会活動にも関わったことがなかったので、大勢の生徒の前で話すっていうのは、とても経験になりました。場を重ねるうちに緊張もだんだん無くなり、当日はそこまで緊張せずにすみました。そこですごい自身の成長を感じました。当日 3000 人の前で挨拶したのですが、マイクのと観客席に距離



があったことで緊張がほぐれたのかもしれない。
奥田：何かを実現するために人と関係性を築いたり、準備のために色んなことをしたりすることで培われたスキルもあると思うんですけど。私は、個人的な話ですけど、継続することが苦手でした。今回の体育祭は、始めから関わってずっと最後までいろいろな人を巻き込みながら、ちゃんと成功させることができたのが自分にとって成功というか、継続力が培われたりした感じがします。
金子：僕が主に感じたのが、情報伝達の難しさっていうものを感じました。例えば、生徒に向けて、今年は国立競技場で体育祭を開催するということをいかに生徒に盛り上げて伝えるか、先生方にも、これをしてくださいっていう要請内容が正しく伝わっていなかったために当日「何すればいい?」って聞かれちゃう状況があったり、当日の BGM で想定と違う音楽が流れてしまったりというシーンがありまだ改善の余地を感じました。

先生の視点から見た実行委員の成長

澤田：先生として今回 1 番ご苦労された点はなんでしょうか？
田部先生：そうですね。僕は本当に苦労は正直していません。この 5 人に新しいリーダーシップ像を見た気がします。現在立教大学も新しいリーダーシップ教育を推進してるようなところもあるんですが、委員長の永田君は本人が言うとおり、攻撃側というよりか、守備側で、客観的に周りを見て、ミスをしないように色んなカバーができるような生徒かなと見ていて感じました。自分で強引に牽引しすぎないことが、周りからすると落ち着いていて、信頼感が生まれているのだなと感じました。あと副実行委員長と書記も含めたこの数理研の固い絆と安定感。縁の下でベースを構築して、それをどう共有するか工夫する。それぞれの得意な部分を発揮し、一人だけが引っ張るのではなくて、それぞれ得意な分野で全体を牽引し組織を作るといういわゆる「立教型リーダーシップ」を序盤の段階で構築してくれたおかげだと思っています。体育祭を校外でやるっていうことは、私にとってももかなり苦労かなとは思ってはいたんですけど、やはり蓋を開けると、これだけの生徒たちの意志で、作って来たっていうのは非常に良かったです。

さいごに

生徒全員：僕たちが学外開催のハードルを下げたので、後輩たちにもぜひ続けてほしいです！

国立競技場での開催を実現した実行委員たちの挑戦は、新たな伝統の第一歩となった。来年度以降も立教池袋の体育祭がさらなる発展を遂げることを期待したい。

（聞き手：澤田 剛治 / 編集：前原 一仁）

強さの源泉と未来への展望

立教新座高等学校サイクル部

この度、目覚ましい活躍を見せる立教新座中学・高校サイクル部に迫るべく、埼玉県営の「大宮双輪場」で練習中の笠原昇太郎さん（高校3年生）、副顧問の宮内駿先生（国語科）、そして非常勤副顧問（外部指導者）の木村光男氏にお話を伺いました。

現在の部員数は何名ですか？

笠原：今は9名です。現在、高校生の現役部員が6名、中学生の部員が1名です。過去にはもっと多くの部員がいましたが、今は少人数で活動しています。引退した高校3年生の部員を含めると9名になります。

近年、立教新座高校サイクル部が大変活躍されていますが、以前から強豪校だったのでしょうか？

笠原：僕が入学した頃も過去数年にわたってインターハイに出場していました。僕が在学している間もだいたい出場できていますし、多い時にはインターハイに4名が出場したこともあります。

宮内先生：立教大学の自転車競技部は、学生連合の中でも最も古い歴史を持つと聞いています。高校のサイクル部もかなり歴史はあるのですが、常に全国レベルで強豪校であったというわけではありません。ただ、近年は全国大会で活躍する選手も出てきています。

宮内先生はどれくらいの期間、顧問をされていますか？ また、それまでのご経験は？

宮内先生：私は2016年に立教に赴任し、その年からサイクル部の副顧問を務めております。今年で9年目になります。現時点での主顧問は成塚先生ですが、2025年度より交代する予定です。私自身は自転車競技の経験はありませんが、コーチや審判員の資格を取得し、専門性を高めようとしています。

木村氏：私は以前、小松原高校（埼玉県私立。現・叡明高校）で自転車競技部を立ち上げ、長年指導に携わってきました。国体やインターハイで優勝する選手を育成した経験もあります。現在は立教新座中学・高校の非常勤副顧問として、指導させていただいています。

宮内先生が顧問になられた時、どのような方針でクラブを運営していこうとお考えになりましたか？

宮内先生：特に明確な方針というわけではありませんでしたが、自転車競技はどうしても怪我のリスクが伴います。その中で、選手たちがお互いに体を預け合い、協力してレースに臨む姿勢を大切にしたいと考えてきました。普段の練習でも、部員同士でトレインを組んでお互いを牽引するなど、チームワークを意識するように促しています。私も練習に加わり、バイクや自動車で先導することもあります。

強い選手が育つのはどうしてだと思いますか？

木村氏：一番大切なのは、やはり練習をすることです。強い選手ほど、やられているという感覚ではなく、自ら積極的に練習に取り組んでいます。練習が終わった後にも、自主的にさらに練習する選手もいます。目標をしっかりと持ち、そのために何が必要

かを自分で考えられるようになることが重要です。また、ウェイトトレーニングも欠かせません。立教の練習量は、全国レベルで見ると、まだ十分に多いとは言えません。

笠原：僕の場合は、中学に入った時に同級生がいなかったのが、目標となるのは先輩しかいませんでした。その先輩たちが皆とても速かったのが、辛い練習にもついていこうと頑張ることができました。

日々の練習内容はどのように決めているのですか？

笠原：練習メニューは、基本的に部員たちで話し合って決めています。キャプテンなどが中心になって、どのような練習をするか提案し、みんなで「これをやろう」と決めています。

宮内先生：双輪場での練習では、バイクで先導しながら、高速展開の練習やゴールスプリントの練習などを行うことがあります。

高校から初心者で入部する生徒もいるのでしょうか？

笠原：僕は中学1年から始めましたが、当時は同級生がいませんでした。中学から始める人は、むしろ珍しいと思います。

宮内先生：現在のキャプテンである今田君は、中学の頃はテニス部で、高校からサイクル部に入部しましたが、2年生で全国大会にも出場しています。ほとんどの選手が、高校から自転車競技を始めると言っても過言ではありません。

生徒一人ひとりの主体性が育まれて、それが上手く発揮されて



いるように見受けられますが？

笠原：僕は、友達と一緒にではなく、自分でやりたいと思って一人で自転車競技を始めました。目標となる先輩たちがいたので、自分なりに考えて練習に取り組むことができました。練習メニューも自分たちで話し合って決めるので、主体的に関わっていると思います。

木村氏：強い選手は、指導者から言われなくても自分で考えて練習に取り組むものです。

自転車を始めたきっかけは何ですか？

笠原：中学の時に、クラブ紹介で先輩がやっているのを見て、いいなと思ったのがきっかけです。当時「弱虫ペダル」という自転車競技を題材にした漫画が人気で影響を受けた一面もありました。

自転車競技の魅力や、楽しいところは何ですか？

笠原：一番はスピード感ですね。それに、自転車は距離を乗れば乗るほど強くなれると感じています。努力が結果に繋がりがやすいのが魅力だと思います。

宮内先生：やはり部員たちが体と体を預け合って、切磋琢磨しながらレースをするという点に、指導をする立場から見ても強い魅力を感じます。普段の練習から、その意識の高さが伺えます。

個人と団体、どちらが楽しいですか？

笠原：そうですね、個人でやるのも好きですけど、やっぱり団体も好きです。

宮内先生：チームパーシュート（団体追い抜き種目）のように、チームメイトと力を合わせて目標を目指すのは、自転車競技の大きな魅力の一つだと思います。

団体種目の作戦は、パートナーと一緒に考えるのですか？

笠原：はい、チームのメンバーと作戦を一緒に考えます。それに、大会によっては、ライバルである違う学校の選手とも話し合って、協力してレースを進めることもあります。

宮内先生：団体種目においては、メンバー間の綿密なコミュニケーションと戦略が不可欠です。選手たちが主体的に作戦を練っていることは素晴らしいと思います。

部活のメンバーは、仲間でもありライバルでもあります、その距離感はどのようにとらえていますか？

笠原：部活のメンバーは、先輩後輩関係なく仲が良いです。練習も遠征もずっと一緒なので、本当に深い繋がりがあって感じています。ただ、ロードレースなど個人種目では、お互いにライバル



という意識も当然あります。

宮内先生：部員数が少ないこともあり、部員同士の人間関係は非常に良好です。先輩後輩の垣根を越えて、強い信頼関係で結ばれていると感じます。

入部して良かったと思うところは、何ですか？

笠原：中学から練習を始めたことで着実に実力を身につけることができ、高校1年生の頃から継続してインターハイに出場できたのは大きかったと思います。他の部活だと全国大会に行くのは難しいかもしれませんが、自転車競技は人数が少ないこともあり、そのチャンスを多く掴むことができました。

立教新座中学・高校のサイクル部の一番良いところを教えてください

笠原：一番良いところは、やっぱり部員同士の仲がすごく良いことです。先輩後輩関係なく、みんなで楽しく活動しています。それに、他校の選手とも仲良くなれるので、交流が盛んなのも良いところだと思います。

宮内先生：やはり部員間の仲の良さ、チームワークの良さが一番の魅力だと思います。また、OBの方々との繋がりが深く、伝統ある部であることも誇れる点です。

今後の目標は？

笠原：高校では3回もインターハイに出場させてもらったものの、一度も全国大会で納得のいく結果を残せなかったのがすごく悔しい思いとして残っています。大学に進学してからは、まず全国大会でしっかりと結果を出せるように、これまで以上に練習に励みたいと思っています。それが今の僕の一番の目標です。

インタビューにご協力いただいた笠原昇太郎さん、宮内駿先生、木村光男さん、誠にありがとうございました。立教新座中学・高校サイクル部の今後の更なる活躍を期待しています。

部活動報告

立教池袋

■ テニス部（高校）

令和 6 年度東京都高等学校テニス選手権大会（個人の部）（5 月 4・6 日）
シングルス ベスト8 金子 正人さん^{高3} 関東大会、出場権を獲得
ダブルス 準優勝 金子 正人さん^{高3}・林 陸人さん^{高3} ペア
関東大会、インターハイ出場権を獲得

令和 6 年度全国高等学校総合体育大会（8 月 2 ～ 8 日：大分県大分市
豊後企画テニスコート／レゾナックテニスコート）
ダブルス ベスト8 金子 正人さん^{高3}・林 陸人さん^{高3} ペア

■ テニス部（中学）

東京都中学校テニス大会（7 月 27 日：有明テニスコート）
個人戦ダブルス 準優勝 熊谷・秋山ペア
団体戦 第 3 位 「関東中学生テニス大会」、「全国中学生テニス選手権大会」 出場権を獲得

■ バスケットボール部（中学）

第 40 回東京私立中学校バスケットボール大会（8 月 22 ～ 26 日：各中
学校体育館、代々木第二体育館）
第 3 位

■ 鉄道研究部（中学・高校）

鉄道模型コンテスト（8 月 2 ～ 4 日：新宿住友ビル三角広場）
モジュール部門 特別賞 JR 貨物賞、ベストムービー賞、健闘賞

夏の全国高等学校鉄道模型コンテスト（12 月 12 日：JR 貨物本社）
JR 貨物賞・神奈川臨海鉄道賞受賞
石塚さん^{高3}、眞鍋さん^{高3}、荻野さん^{高3}、石井さん^{中1}

■ 数理研究部（中学・高校）

2024 年度 IVRC 決勝大会（LeapStage）（10 月 25・26 日：サイエン
スアグラ 2024）
一般部門 「寝台列車ですやすや」
特別審査員・観客大賞 ^{高校1・2年生}

2024 年度日経ストックリーグ [Industry of babies]
全国入選 久保 惇之介さん^{中1}、飯尾 晴太さん^{中1}、
井上 朔さん^{中1}、村松 賢明さん^{中1}

2025 年度日経ストックリーグ
「Re:Home ～リフォームが建物を救う。～」
全国入選 吉田 大航さん^{高1}、山崎 圭人さん^{高1}、
大野 翔惟さん^{高1}、桜井 大河さん^{高1}、福田 結仁さん^{高1}

2026 年度日経ストックリーグ
「眠営化革命～睡眠が変える日本経済～」
全国入選 久保 壮太郎さん^{高2}、中村 太凱さん^{高2}、
西本 大晟さん^{高2}、奥田 煌人さん^{高2}、根岸 權さん^{高2}

立教新座

■ ソフトテニス部（高校）

令和 6 年度関東高等学校体育大会ソフトテニス競技
埼玉県予選会 兼 ハイスクールジャパンカップ予選（5 月 5 日：狭山智光
山公園テニスコート）
男子個人戦 ベスト 16 第 75 回関東高等学校ソフトテニス選手権大
会出場権を獲得
酒井 泰輝さん^{高3}、入野 晴さん^{高1}

■ 馬術部（高校）

第 75 回関東高等学校馬術トーナメント戦（5 月 31 ～ 6 月 2 日：JRA
馬事公苑）
半自馬団体障害飛越競技 8 位入賞 馬場 紀彰さん^{高3}、
大澤 吉光さん^{高3}、伊藤 達哉さん^{高3}、神川 楓さん^{高3}
インターハイ出場権を獲得

■ 柔道部（高校）

令和 6 年度学校総合体育大会 兼
第 73 回全国高等学校柔道大会県予選会（6 月 10・11 日：埼玉県立武道館）
男子個人戦 66kg 級 優 勝 二本柳 一希さん^{高2}
インターハイ出場権を獲得
男子個人戦 81kg 級 第 3 位 浅野 克喜さん^{高2}

令和 6 年度埼玉県高等学校柔道選手権大会（1 月 20・21 日：さいたま
市大宮武道館）
男子個人戦 66kg 級 優 勝 二本柳 一希さん^{高2}
「第 47 回全国高等学校柔道選手権大会」 出場権を獲得
男子個人戦 81kg 級 第 2 位 浅野 克喜さん^{高2}
男子団体 第 3 位 浦野 瑛光さん^{高2}、二本柳 一希さん^{高2}、
浅野 克喜さん^{高2}、大屋 佳祐さん^{高1}、丸山 杏護さん^{高1}、
江口 啓二さん^{高1}、高橋 和久斗さん^{高1}

■ 陸上部（高校）

令和 6 年度関東高等学校陸上競技大会・秩父宮賜杯第 77 回
全国高等学校陸上競技対校選手権大会 北関東地区予選（6 月 14～17 日：
駒沢オリンピック公園陸上競技場）
100 m 走 第 4 位 斎藤 隆太郎さん^{高3}
インターハイ出場権を獲得
走り幅跳び 第 2 位 猪狩 悠人さん^{高2}
インターハイ出場権を獲得
4 × 100 m リレー 第 3 位 田中 翔晟さん^{高1}、
矢澤 煌希さん^{高1}、斎藤 隆太郎さん^{高3}、猪狩 悠人さん^{高2}
インターハイ出場権を獲得
4 × 400 m リレー 第 5 位 千島 大芽さん^{高2}、
猪狩 悠人さん^{高2}、斎藤 隆太郎さん^{高3}、渡井 琥鉄さん^{高3}
インターハイ出場権を獲得

■ ボート部（高校）

令和 6 年度全国高等学校総合体育大会
ローイング競技埼玉県予選会（6 月 14・15 日：戸田ボートコース）

男子シングルスカル 優 勝 川添 健さん^{高1}
インターハイ出場権を獲得

■ テニス部（中学）

令和 6 年度 埼玉県中学校新人体育大会 兼 第 37 回県民総合スポー
ツ大会 <中学校の部>（10 月 15・16 日：智光山公園テニスコート）
団体戦 第 2 位 令和 6 年度関東中学校新人テニス選手権大会（学
校対抗の部） 出場権を獲得

■ フェンシング部（高校）

世界ジュニア・カデ・フェンシング選手権 2024（4 月 12 ～ 20 日：サ
ウジアラビア王国リヤド市）
カデ男子サーブル 第 3 位（銅メダル） 河原 資起さん^{高3}

令和 6 年度関東高校フェンシング大会（6 月 8・9 日：新座市民総合体
育館）
学校対抗男子フルーレ 優 勝 高橋 颯吾さん^{高3}、大山 凜大さん^{高3}、
安達 諒さん^{高3}、鈴木 哲矢さん^{高2}、中尾 豪太さん^{高2}

全国学校総合体育大会埼玉県予選（6 月 14 日：さいたま市与野体育館）
個人対抗男子サーブル 優 勝 河原 資起さん^{高3}
個人対抗男子フルーレ 優 勝 鈴木 哲矢さん^{高2}

令和 6 年度 全国高等学校総合体育大会（7 月 23 ～ 27 日：佐賀県・
SAGA サンライズパーク SAGA アリーナ）
男子個人対抗サーブル 優 勝 河原 資起さん^{高3}
男子個人対抗フルーレ 準優勝 鈴木 哲矢さん^{高2}

第 78 回国民スポーツ大会
「SAGA2024 国民スポーツ大会」フェンシング競技（10 月 7～10 日：佐
賀県佐賀市 SAGA サンライズパーク SAGA プラザ）

同窓生だより

剣道 立教池袋剣道部OB会 60周年祝賀会

2024 年月11月16日（土）、立教池袋中高等学校剣道部創部60周年記念祝賀会が開催されました。当日は剣道場で生徒と一緒に稽古した後、OB会より選手用の防具（胴）を7個寄贈いたしました。それからセントポールズ会館2階に場所を移して祝賀会となり、約70名のご来賓、OB、保護者の皆様にご参加いただき、楽しい会を開催することができました。皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げますとともに、引き続きのご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ：rik.ike.ken.obkai@gmail.com 事務局：森 弘樹（平成元年中学卒）



クラス会 中学校3年2組クラス会、42年連続開催更新中！

1984 年 2 月 15 日、当時の立教中学 3 年 2 組生徒 45 人全員が立教高校への進学が確定した。担任の高野先生宅へ集まりお祝いしたのが第一回同窓会。その後社会人となり参加人数が減った時期もあるが、皆の先生や仲間を思う気持ちと IT 進化による案内・開催方法の多様化といった追い風もあり毎年欠かすことなく 42 回を数えた。今年は 2 月 28 日に 19 名がホテルメトロポリタンに集まり旧交を温めた。先生も 81 歳。我々が集まることが先生の活力源になってくれると嬉しい。（藤本 光泰）



礼拝 福澤(古木)道夫司祭 逝去10年の記念礼拝

日時：2024年10月19日(土) 14:00～15:00

場所：立教学院聖パウロ礼拝堂(新座チャペル)

司式：大畑喜道主教(説教)、山口千寿司祭、福永澄執事

奏楽：中島郁代

福澤(古木)道夫司祭(高校チャプレン 1962～1974 / 中学校チャプレン 1974～1976)の逝去10年の記念礼拝が、懐かしい新座のチャペルでご遺族をはじめ約70名を集めて行われた。司式も奏楽もフルキの教え子。礼拝後生徒ホールで約1時間の茶話会。福田裕昭理事長、西原康太大学総長・学院長のお二人もそれぞれ思い出話を披露された。我々1966年中学入学、1972年高校卒業の同期会が世話人を買って出たのは、親にも言えない素行不良でチャプレンの世話になった者が特別に多かったことによる。〔「66-72同期会」幹事会〕



寄宿寮 寄宿寮(東寮12回生)

■ **古希記念同期会** 令和5年7月9～10日、勝俣君が社長の「湯本富士屋ホテル」に森田・西村・渋谷の3先生をお招きし、物故者4名を除く同期34名中19名が集まり再会を喜んだ。卒寮以来50年振りの参加者も多数いて、改めて時の流れの早さを認識した。初日は先生方を囲んでのランチ会から始まり、フロント前の特設の受付にて「出席点呼」後、各自割り振られた部屋でのフリータイム、懇親会は17時から始まった。まずは森田先生先導で物故者へ祈りを捧げ、終わると定番の先生方からのご挨拶があり、その後勝俣社長指名の「箱根芸者4名」が登場。「オー」と静寂が驚愕に変わったところで、遠方伊勢から参加の花井君の乾杯、4次会まで続く50年分の長い宴会が始まった。大広間での締めは定番の平野リーダー長による「第1応援歌」に隅谷団長の「学院歌」。翌日は朝食後に、次回は森田先生の米寿会を合言葉にそれぞれ家路についた。(歩)

■ **「森田先生の米寿を祝う会」** 令和6年10月5日(土)、銀座の老舗中華店で同期20名が集まり、森田先生の米寿を盛大にお祝いしました。88歳とは思えないお元氣な先生と、昔話で盛り上がり、締めに応援・校歌斉唱後、散会となりました。(歩)



▲ 森田先生の米寿を祝う会

バスケット 立教中学高校バスケットボール部OB会

令和6年6月15日(土)第1期総会が開催されました。

70年の歴史ある立教新座高校・同志社岩倉高校定期戦、40年超のSPBF(小学校から大学まで揃ってのバスケットボールフェスティバル)、中学・高校バスケットボール部支援、OB会員親睦目的で活動しています。

52名の方々にご出席いただき、令和5年度決算及び事業報告・令和6年度予算及び事業計画等を承認いただきました。合言葉の『あ(明るく)・な(仲良く)・た(楽しく)の中高バスケOB会』として、池袋・新座校の先生方からの近況報告及びミニルール解説等楽しい時間を過ごし、第一応援歌『行け立教健児』大合唱で閉めさせてもらいました。OB会ホームページも開設されました。中高同窓会の皆様でバスケットボール部在籍されていた方々はどうぞご入会をお願いいたします。

《今後の予定》総会・親睦会開催日時：令和7年6月21日(土) 17時30分開会予定

『地球飯店』豊島区西池袋1-22-8 TEL 03-3985-0684

問合先：幹事長 後上 彰(昭和47年池袋中学・昭和50年新座高校卒)

akryk_0728@nifty.com / a.gogami.4-10@docomo.ne.jp

立教中学高校バスケットボール部OB会 会長 堀居 英治(昭和43年池袋中学・昭和46年新座高校卒)



立教池袋 2024年度退職者・就任者・逝去者

退職者 西澤 宏佳(音楽科)、山口 弘泰(技術科・情報科)、古賀 賢之(保健体育科)

就任者 吉野 光(校長)、李 相寅(チャプレン)、佐藤 侑希(社会科)、山崎 翔太(保健体育科)、谷 尚彦(英語科)

逝去者 方波見 元(元英語科教諭)、金刺 克彦(元国語科教諭)、国見 登(元校長)、島根 吉春(元校務職員)

立教新座 2024年度退職者・逝去者

退職者 佐藤 忠博(前校長)、渡部 智博(理科)、中間 和洋(社会科)、荒井 雅子(社会科)、堀口 栄一(職員)

逝去者 上野 明德(元保健体育科教諭)、日高 宏(元理科科教諭)、相原 宏(元理科科教諭)、北條 鎮雄(元英語科教諭)、山本 道雄(元理科科教諭)